




内宮慶之FP事務所

〒543-0028
大阪市天王寺区小橋町12-2
ホワイトレジデンス1101号

e-mail : fp.uchimiya@gmail.com

携帯電話 : 090-9803-7479

お気軽にご相談下さい  06-7163-9225

内宮慶之FP事務所

検索 

FP Topics

= お金にも働いてもらう ! =

2022年3月号

世界は本当に恐ろしい事態に直面しているようです。日常がこんなに簡単に壊れていくのかと思うとゾツとしてしまいます。自分や自分の家族を守っていくのは自分自身なのだと改めて感じました。

人生100年時代を生き抜くことも、ある意味自己責任なのかもしれません。

今月はお金にも働いてもらうというお題です。

まずは基本的なところからお話を進めていきたいと思えます。

= お金の置き場所 =

皆さんも身をもって感じていらっしゃると思いますが、日本は空前の低金利時代が継続しています。大手都市銀行の普通預金利息は年利0.001%です。これは大枚100万円を一年間預けて得られる利息が10円という利率です。

10円貰えるかという、そんなに甘くはありません。ここからキッチリ税金が差し引かれます。年利0.001%のところ利子税の税率は20.315%です。クラクラしてしまいます。100万円を1年間他人に預けて7円96銭にしかならないのです・・・

時間外に自分の口座にお金を預ける際にも手数料がかかります。110円? 220円? 少し馬鹿げているようにも感じますね。なんとか自衛する術を考えなければなりません。しかも、現在日本はインフレ傾向にあります。物価が上昇しているということです。

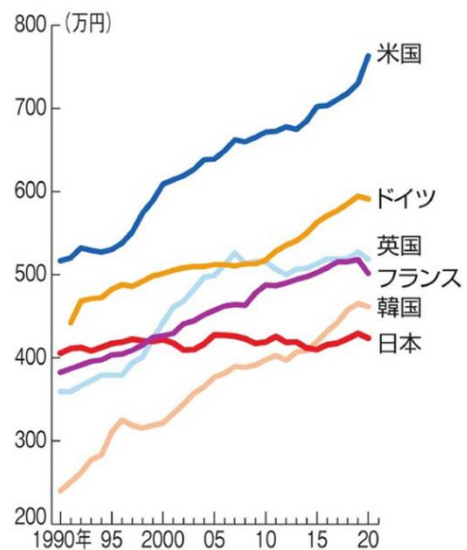
インフレーションとは物の価値が上昇し、お金の価値が下落する現象です。日本政府は2%インフレターゲットという政策を掲げていました。今日100円で買えるハンバーガーが明日102円になるということです。

銀行にお金を預けているだけでは、この物価上昇に追いつけません。実質お金は目減りしていると考えられるのです。

= 日本は低賃金 =

出典：朝日新聞デジタル

主要国の平均賃金(年収)の推移 OECD調べ



経済協力開発機構 (OECD) 調べでは、我が国日本は約30年間賃金が上がっていません。これは異常だとしか考えられません。韓国にも抜かれています。日本人の平均的な賃金は400万円ほどなのです。まさに失われた30年を象徴しています。

また、今回の紛争により世界経済は混乱しています。日本の物価上昇も2%どころではないでしょう。

インフレーションだけでは済まないかもしれません。現在日本の経済状況では、スタグフレーションに陥る危険があります。つまり、景気が後退 (停滞) して物価だけが上昇する現象です。賃金が上がらないのに、物価が上昇する往復ビンタをお見舞いされそうです。

この経済状況に対処するためには、工夫して世帯収入を確保する必要があります。1馬力 (世帯主) で足りない場合は2馬力 (+配偶者) で、お金にも働いてもらうと3馬力が可能となります。

この3馬力目は、お金の置き場所を工夫するという事です。難しく考える必要はないと思えます。

= 単利と複利 =

出典：日本FP協会

単利と複利の違い

金利2%で預けた場合

単利



複利



お金を運用（預ける）する際の利息の計算方法には、単利と複利の2種類があります。

【単利】

単利とは、毎年、元本に対してのみ金利が適用されるものです。イラストで確認できますが毎年2万円ずつ増えていきます。

【複利】

複利とは、かのアインシュタインに『人類最大の発明』と言わしめたものです。毎年、元本に利息を含めて金利を適用する方法です。雪だるま式に利息が増加します。

この複利の性質を利用して、長期にわたって資産運用する方法を《長期積立分散投資》と呼びます。

= 72の法則 =

72の法則とは、元本が2倍になる期間を計算できる便利な法則です。72を利率で割るだけです。

Ex：100万円を金利（年）1%で運用した場合、200万円になるのに何年かかる？

$$72 \div 1 (\%) = 72 \text{年}$$

100万円を1%で運用した場合、200万円になるのに72年かかります。現在の金利0.001%で計算すると、 $72 \div 0.001 = 72,000$ 年かかることがわかります。

預金等にお金を置いておくことはかなりリスクです。物価の上昇に追いつけません。また、スタグフレーションにも対処できるよう備えておきたいものです。お金にも働いてもらう具体的な方法《長期積立分散投資》は金融庁も推奨している優れた運用手法だと思います。次号以降具体的に解説します！

～今月の山便り～

歩き出そうとしますが後ろ髪を引かれます。行場のすぐそばには美しい沢が流れていて、心地よい調べにうっとりします。小篠宿の荘厳な空気に圧倒され、しばらく動けずにいました。

15：00を過ぎる時刻は、通常の縦走計画では留まるべきです。しかし、雨も小降りになっており、熊野本宮大社までの距離を考えると、少しでも距離を稼いでおきたかったのだと思います。

ここでも判断を誤ってしまうのです・・・10月も終わりという時期、秋の陽はつるべ落とりに沈んでしまいます。雨の日、もちろん太陽は出ていません。山は一瞬のうちに暗くなります。

また、通常の登山道を歩くだけだという甘い認識が2度目の災難を呼びました。何度も振り返りながら小篠ノ宿を後にし、結界門をくぐります。結界をくぐるということだけでも何かドキドキします。

すぐに鬱蒼とした登りになります。あとで知るのですが、ここから先しばらくの区間は、かなりの危険地帯だったのです。急峻な山々をいくつも超えなければなりません。

薄暗い急峻な山道を急ぐと、また雨が降りだしました。樹林帯の薄暗さだと感じていましたが、どうも日が暮れてきたようです。錆びた鎖場をいくつも超え、小さな岩稜のピークで現在位置を確認します。

雨も強くなり薄暗い山中ではスピードができません。どうやら日暮れまでに危険地帯を抜けることはできないようです。暗くなり行動不能となるまでには、ビバーク（緊急露営）できそうな場所を探さなければなりません。

辺りを見回すと、自分の周りに霧がかかっているのだとばかり思っていました。自分の汗が蒸発していたのです。気温もかなり下がりはじめています。ヘッドランプを装着しましたが、あまり性能の良いものでなかったのも・・・です。

もうほとんど見えなくなりましたが、目の前の鎖場（岸壁のトラバース）は超えなくてはなりません。そこは《薩摩転げ》という難所で、その昔薩摩の人が転げ落ちたと伝えられている場所です。私が滑落すると《浪速転げ》になるのでしょうか？